

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 財団法人とよなか国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

豊中市は大阪の北部に位置する外国人の少数点在地域であり、外国人登録者数は約 4,800 人で市人口の 1.2%を占めている（2009 年 12 月末現在）。市内を南北に走る阪急電車と北大阪急行、そして東西に走る大阪モノレールにより、生活圏は、北部・南部・東部（北東部）の 3つの地域に構成されており、北部は大阪のベッドタウンとして発展し、大阪大学や住宅地が広がり、外国人は留学生や研究者が多い。また、大企業のある池田市と隣接しており、IT 関係者なども多い。東部には千里ニュータウンがあり、外資系の企業で働く人だけでなく、大阪市内に通勤する外国人も多い。南部は北部や東部とは異なり、古くからの街並みが広がり、下請け・孫請けの工場が多く、日系人や研修生・技能実習生、国際結婚の配偶者等が多く暮らす。このように豊中市は地域の状況がさまざまであり、多様な背景を持つ外国人が点在して居住している。

このように点在し多様な背景やニーズをもつ外国人の状況をふまえ協会では、事業（支援）からこぼれ落ちる人への想像力を常に持ち、生活者としての外国人のニーズに合わせ、事業の目的、対象者、場所、実施曜日（時間帯）、活動形態などを多様化することで外国人の多様なニーズに応えようとしてきた。しかし、多様なニーズに対応するため特定の組織（協会）が活動を多様化するだけでは限界があり、今後、予算の削減や人材の不足によってはその存続自体も危ぶまれる可能性が出てきた。地域で「生活者としての外国人」の増加が避けては通れない状況である以上は、地域としてかれらを受け入れる持続可能な仕組みづくりが求められる。

そこで、昨年度は、文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の委嘱を受けて、「多文化共生社会の基盤をつくるための“むすびめ”を生み出す日本語コーディネーター研修」（以下、むすびめ研修）を実施した。むすびめ研修 1 年目では、日本語ボランティアが、豊中市国際化施策推進基本方針に基づく施策・事業から、地域の国際化の現状や課題の検証、既存の事業や活動がもつ社会資源の把握、先進地域（名古屋・豊橋・浜松・神戸）への視察研修を行い、地域資源の整理や市のさまざまな部署や既存の事業（活動）がもつ「強み」と「弱み」をうまくつなぎあわせることで、外国人の抱える問題の解決やその予防の仕組みを生み出せないかについて考えた。また、これらの研修の過程で、市のさまざまな部署とこれまでの連携を見直し整理したり、あたらな連携を構築することができた。

委嘱 2 年目となる今年度は、昨年度の取り組みから立案したモデル事業を実施・評価し、外国人と日本社会との重要な接点となりうる日本語ボランティアが、分野を越えた協働をコーディネートし（＝それぞれのもつ地域資源をうまく組み合わせること）、「生活者として」外国人が地域で安心・安全に暮らしていくための多文化共生社会の基盤づくりを行っていくことを試みた。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
10 月 7 日	とよなか国際交流センター	豊中市人権文化部文化芸術・国際室、健康福祉部健康支援室、庄内保健センター、こども未来部子育て支援課、子育て	委員自己紹介 委嘱事業の説明 今後のスケジュール	委嘱事業を実施する背景と目的の説明、昨年度の成果と課題、年間予定について

		支援センター、市民生活部地域経済振興室労働会館、教育委員会生涯学習推進室地域教育振興課、岡町図書館、社会福祉法人豊中市社会福祉協議会、財団法人とよなか国際交流協会		
10月19日	岡町図書館	岡町図書館、財団法人とよなか国際交流協会、むすびめコーディネーター	図書館における多文化サービスの充実について	図書館における外国人親子対象の読書推進事業における課題の整理、豊中市子ども読書活動推進計画第1期実施計画について(外国人の子どもの読書推進について)
11月25日	とよなか国際交流センター	労働会館、財団法人とよなか国際交流協会、むすびめコーディネーター	就労分野における外国人の抱える課題の整理と支援の連携について	就労を目指す外国人のための講座(しごとにつながる日本語講座等)の企画、生活困窮や就労を目指す外国人のケースシェア
11月26日	とよなか国際交流センター	豊中市人権文化部文化芸術・国際室、財団法人とよなか国際交流協会、むすびめコーディネーター	豊中市における外国人市民への情報発信、相談事業の課題	豊中市人権文化部文化芸術・国際室の市制相談窓口と、財団法人とよなか国際交流協会の多言語相談の状況と課題、連携について
1月18日	岡町図書館	岡町図書館、財団法人とよなか国際交流協会、むすびめコーディネーター	図書館における多文化サービスの充実について	豊中市子ども読書活動推進計画第2期実施計画について、今後の具体的な連携や、図書館における多文化サービスを充実する事業等について
3月11日	すこやかプラザ	健康福祉部健康支援室中部保健センター、財団法人とよなか国際交流協会、むすびめコーディネーター	母子保健分野における外国人支援の課題と連携	地域で孤立している外国人親子へのアプローチ、今後の連携について
3月24日	とよなか国際交流センター	豊中市人権文化部文化芸術・国際室、健康福祉部健康支援室中部保健センター、子ども未来部子育て支援課子育て支援センター、市民生活部地域経済振興室労働会館、教育委員会生涯学習推進室地域教育振興課、岡町図書館、蛸池公民館、社会福祉法人豊中市社会福祉協議会、財団法人とよなか国際交流協会	事業報告会	2年間の事業での成果、課題を共有し、委嘱事業終了後の連携についての確認

【写真】



3 研修講座の内容について

(1) 研修講座名

多文化共生社会の基盤をつくるための“むすびめ”を生み出す
日本語コーディネーター研修

(2) 研修の目標

- ①昨年度の取り組みの結果から、外国人市民が抱えるさまざまな問題の解決や予防となるモデル事業を、分野を越えた協働により実施する。モデル事業終了後は、参加した外国人市民への聞き取りと、受講後の経過も含めた評価を行う。また、事業内容だけでなく、市の関係部署も含め、市の仕組み（制度など）を活用し、次年度以降の事業の自立化を考える。
- ②モデル事業の実践研修だけでなく、市民活動やボランティアグループマネジメント等の組織運営についての研修会を行い、将来的にも持続可能な「生活者としての外国人」のための日本語教育事業や、外国人の自立・社会参加を進める事業を推進していく人材（ボランティアリーダー）を養成し、地域における多文化共生の裾野を広げる。
- ③これらの実践を通して、外国人が地域で安心・安全に暮らしていくための持続可能なセイフティーネット構築の素地をつくる。

(3) 受講者の総数 77 人

（日本語ボランティア 40 人、外国人 37 人：出身・国籍別内訳 フィリピン 15 人、タイ 6 人、中国 4 人、韓国 3 人、ネパール 2 人、インドネシア 2 人、メキシコ 1 人、フランス 1 人、ブラジル 1 人、香港 1 人、台湾 1 人）

(4) 開催時間数(回数) 73.5 時間 (26 回)

(5) 参加対象者の要件 日本語ボランティア、モデル事業については外国人

(6) 受講者の募集方法

当協会の日本語教室、豊中市内の公民館等で行われている日本語教室で広報した

(7) 研修会場

ア 講義 とよなか国際交流センター、すこやかプラザ、豊中市労働会館、福祉施設(オリーブの園)
イ 実習 市民活動支援センター神戸、たかとりコミュニティセンター、海外移住と文化の文化センター

(8) 使用した教材・リソース 講師・日本語ボランティア作成のレジメ・資料など

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7月9日	「相談員として、援助する・支援する側の基本」 相談員として関わる上で大切にしなければならない視点や、相談の留意点について	とよなか男女共同参画推進センター すてっぷ相談主任・心理カウンセラー 川畑 真理子	14人
10月8日	「企業に必要な人材とは？」 豊中市の就労分野における地域資源（地域就労支援センター、無料紹介所等）について、外国人を雇用する際の企業側のニーズについて知り、企業の求める人材から外国人就労支援のあり方を考える	豊中市無料職業紹介所人材コーディネーター 川端 久美子	10人
10月14日	「外国人の就労支援の実践～履歴書の書き方」 外国人の就労支援をする上で必要なスキ	豊中市地域就労支援センター相談員 小川 英子	8人

	ルを学ぶ～履歴書の書き方～		
10月22日	「豊中市における児童虐待の現状」 虐待をはじめとする子育てにおける課題を学び、虐待・子育て支援における外国人支援のあり方と、関係機関との連携を考える(虐待とは、豊中市こども家庭相談室の対応について等)	豊中市こども家庭相談室 鳶岡 敏明 臨床心理士	10人
11月2日	「しごとにつなげるにほんご講座①」 就職活動をはじめよう！電話でアポイントをとる、丁寧に話すことで就職の第一歩を歩き出す。 求人情報の日本語、電話の日本語	協会にほんごスタッフ 和田 由起子 大平 幸	外国人18人 V11人
11月5日	「しごとにつなげるにほんご講座②」 履歴書の書き方、実際に自分の履歴書を作成する、パーソナルで書き方を指導、出来上がった履歴書は労働会館の就労相談員に見てもらい、アドバイスをもらう	協会にほんごスタッフ 和田 由起子、木内淑子、大平幸、杉浦章子	外国人18人 V10人
11月9日	「しごとにつなげるにほんご講座③」 日本の雇用の仕組み・ビジネスマナー、日本での働き方、文化・習慣の違い、職場での人間関係を円滑にする日本語、日本企業の仕組みを知り、上司の指示を理解しながら、働く体験する	多文化共生センター大阪副代表 理事 堀西 雅亮	外国人16人 V10人
11月12日	「しごとにつなげるにほんご講座④」 面接の日本語、振舞い方、面接のマナー 基本的マナー(笑顔、アイコンタクト、身だしなみ、話し方、お辞儀)を学ぶ、日本の文化を理解し、就職につなげる	コムルシエル代表 継本 智月	外国人10人 V9人
11月16日	「しごとにつなげるにほんご講座⑤」 企業に必要な人材、職場での人間関係を円滑にするための日本語の重要性、企業が心配していること、ハウレンソウ、コミュニケーション等)、給与明細の読み方・用語、日本で働いた経験談	協会にほんごスタッフ 岡本 広美、木内淑子	外国人16人 V8人
12月7日	「しごとにつなげるにほんご講座⑥」 翌日開催される、合同面接会にむけて面接・立ち振る舞いの練習、自己分析、自己PR作成、志望動機の作成等直前面接マナー(本番面接の前に特訓。面接会場の出入りの仕方、挨拶、お辞儀を通じて、自己分析し、積極性とチャレンジ精神を学ぶ、自信を持って面接に臨む準備)	コムルシエル代表 継本 智月	外国人2人 V6人

11月14日	「外国人支援スキルアップ研修①～相談者とともに～」 外国人の相談に関する基礎知識（統計、在留資格、在日外国人の増加と日本社会、外国籍住民の差別・人権問題、家事制度他に関する用語と解説、相談事例、相談員・通訳者として留意すること等）	RINK すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク 木村雄二	14人
11月19日	「外国人支援スキルアップ研修②～相談者とともに～」 外国人の相談に関する基礎知識（統計、在留資格、在日外国人の増加と日本社会、外国籍住民の差別・人権問題、家事制度他に関する用語と解説、相談事例、相談員・通訳者として留意すること等）	RINK すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク 木村雄二	15人
11月21日	「みんなで考える「協会（組織）・活動（人びと）・センター（公共空間）の未来」」 とよなか国際交流センターで行われている外国人支援事業等の活動が、センターを取り巻く環境に変化が起きたとしても、持続可能な活動としていくために、指定管理者制度等の社会の流れと、組織・運営のあり方を学ぶ（指定管理制度と選定基準と制度における未解決の問題点、市場化テスト法への流れ、市民活動と市民性、行政評価における有効性指標と施設「使命」の明確化、社会資本形成投資の視点、非営利団体と営利団体の比較等）	帝塚山大学大学院 中川幾郎	60人
11月26日	「地域福祉と外国人支援」 社会福祉協議会の取り組みを学び、社協のもつ社会資源を知る。また、地域福祉における外国人住民の課題を共有し、外国人支援のあり方と、関係機関との連携を考える（社会福祉協議会の取り組み、コミュニティソーシャルワーカー、ボランティアセンター、相談事業、協働プロジェクト等）	豊中市社会福祉協議会 課長 勝部麗子 係長 佐藤千佳	8人
1月13日	「介護・福祉分野でのリーダー養成」 介護・福祉分野でリーダーとなる人材育成のノウハウを学び、介護・福祉分野で働く外国人支援のあり方を考える（働くこととは何か、リーダーとして担うべきこと、オリーブの園のボード学習等）	特定非営利活動法人オリーブの園 理事長 是山康子 グループホームひより施設長 西山智崇	7人
2月1日	「外国人の就労支援のための専門研修①」 豊中市における雇用・就労関係事業の全体像を把握し、外国人の就労支援のあり方を	豊中市労働会館 理事 西岡正次 豊中市無料職業紹介所人材コー	5人

	考える。(豊中市における緊急雇用事業について、豊中市雇用・就労施策推進プラン、豊中市地域就労支援センターの相談・支援の現状・統計、豊中市無料職業紹介所について等)	ディネーター 川端久美子 豊中市地域就労支援センター相談員 小川英子	
2月7日	「外国人の就労支援のための専門研修②」 生活保護、生活保護受給者への就労支援、ケーススタディについて	豊中市生活福祉課職員 豊中市労働会館豊中市地域就労支援センター相談員 関本幸恵	5人
2月8日	「外国人の就労支援のための専門研修③」 地域就労支援センターと無料職業紹介所の連携、母子家庭の就労支援、事例検討(外国人の就労事例等)、就職活動の進め方、住宅支援について	豊中市労働会館 豊中市無料職業紹介所人材コーディネーター 川端久美子 豊中市地域就労支援センター 小川英子・関本幸恵 社会福祉協議会職員	5人
2月1日	「ライフプランニング講座①～日本で生活・働くために～」 日本で生活や子育てをしていくために、これまでの生き方を振り返り、これからの人生をどのように歩むかを計画しながら(時間の使い方、働き方等)再認識する。子育て中の女性にはこらから社会復帰の準備	関西こども文化協会 事務局スタッフ 中村有美	外国人5人 V7人
2月3日	「ライフプランニング講座②～日本で生活・働くために～」 日本で生活や子育てをしていくために、これまでの生き方を振り返り、これからの人生をどのように歩むかを計画しながら(時間の使い方、働き方等)再認識する。子育て中の女性にはこらから社会復帰の準備	関西こども文化協会 事務局スタッフ 中村有美	外国人1人 V7人
2月22日	「やさしい敬語講座」 日本で就職するために必要な日本語の敬語を学ぶ。やさしい敬語を話せることで、エンパワメントでき自信を持てるようになる	協会にほんごスタッフ 和田由起子、大平幸	外国人9人 V9人
3月4日	「介護の仕事を知ろう～介護・福祉分野で働くための知識と日本語を学ぼう～」 福祉分野で働いた経験のある外国人の体験談より、この分野で求められるビジネスマナー、コミュニケーション力、日本語を学ぶ。また同じ外国人として社会に出る勇気もらい、挑戦する意欲を持つことで、就職につなげる	協会にほんごスタッフ 和田由起子、岡本広美	外国人11人 V9人
3月12日	「先進地域への視察研修①～市民活動支援センター神戸～」 「市民がまちを創る」社会をめざして、市民活動・市民事業を行う団体や個人のサポー	市民活動支援センター神戸 事務局スタッフ	15人

	トと、その仕組みの社会への発信、また活動環境を整えるために企業・行政や広く市民への働きかけを行っている取り組みについて話をきく。また、事務所にある共同オフィスで、さまざまなNPO団体等が空間を共有しあい活動を展開している運営についても話をきく。		
3月12日	「先進地域への視察研修②～たかとりコミュニティセンター～」 阪神・淡路大震災の際に救援活動の拠点となった「たかとり救援基地」がその前進で、外国籍住民が全体の10%を占める神戸長田市区にある。この地域で、ことば、文化、民族、国籍などが違っていても同じ住民として一緒にまちをつくることを目指し、キリスト教教会の敷地内に8団体がネットワークを組んで「たかとりコミュニティセンター」を構成している。多様な団体が共生し、協働して事業やセンター運営を行ってきた歴史と課題について話をきく。	たかとりコミュニティセンター常務理事 吉富志津代 ワールドキッズコミュニティ事務局 長 村上桂一郎	15人
3月13日	「先進地域への視察研修③～海外移住と文化の交流センター」 神戸移住センター（1928年開設、当時の名称：国立移民収容所）は、1971年の閉鎖まで、日本における海外移住の基地として、南米を中心に多くの移住者を海外に送り出してきた。戦時中は軍の施設、戦後は看護婦の養成機関、阪神・淡路大震災時は神戸海洋気象台の仮庁舎として使われた。1999年にCAPハウスとして活用されたのを契機に、神戸移住資料室がもうけられ、海外移住の歴史と意義を後世に継承するとともに、関西ブラジル人コミュニティの活動場所、多文化共生の拠点施設となる。2009年リニューアルされ、現在、移住ミュージアム、在住外国人支援、国際芸術交流の3つの空間で構成されている。	—	15人
3月13日	「先進地域への視察研修④～ボランティアワークショップ」 指定管理者制度による協会体制の後退を踏まえ、今後も持続可能な事業を展開していくために、またマイノリティ支援を一義にしていることを踏まえた目的施設において公益的な活動を進めていくために、ポ	とよなか国際交流協会 専門職員 今井貴代子、富江真弓	15人

	ランティア同士が課題を出し合い、今後取り組んでいく市民参加型による公共空間づくりについて話し合う。		
--	---	--	--

(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート

<モデル事業(しごとにつなげるにほんご講座)受講者のアンケートより>

- ・初めはすごく分らなかったけど2回、3回、4回どんどんどんどん楽しくなりました。履歴書ちょっと難しかったけど一人で書きました。とてもよかったです。漢字の勉強をもっとしたいです。もっと日本語をしたいです。
- ・履歴書や職務経歴書をチェックしていただいたこと。堀西先生の発表は特に給与明細や職場のことは、文化、習慣の違い。継本先生の発表も良かったと思います。特に面接の流れ、講座の先生ボランティアとスタッフはみんな優しく手伝っていただきました。本当に助かりました。日本語の敬語は本当に難しいと思います。ビジネスマナーも色々なルールがあるので覚えることが難しいと思います。履歴書を書くとき適当な漢字と言葉を選ぶことも難しいと思います。ビジネスマナーと職場の文化をもっと勉強したい。就職活動では、面接が一番難しいステップだと思います。マナーや敬語は苦しいと思います。入社した後で文化や言葉や言葉は大切になると思います。
- ・履歴書を書くこととコミュニケーションの練習と面接の練習はとても良かったです。日本料理の作り方を学びたいです。
- ・レストランの仕事のことを勉強しました。それレストランのことがよく分かりました。電話のかけ方も学びました。仕事のことを難しかったが頑張ります。面接行く時に時間を守るための勉強をしたいです。
- ・今回の「仕事につなげる日本語講座」はとても良かったです。私にとってとても役立つのです。将来仕事を探すとき要注意のところもいっぱい勉強したいです。電話の掛け方、給与明細の分かりにくいところ、履歴書の書き方自分の履歴書を書く練習、面接のマナー色々なこと教えてくれてありがとうございます。難しいところは日本語で履歴書を書くこと、特に動機、アピールそして面接のマナーです。今の私は4ヶ月の子供がいますからやはりこれからの問題が知りたいです。例えば、どんな保育園を選んだら良いか、何歳になったら幼稚園に行かせるかなど。日本にいる外国人ママ、先輩達の話が聞きたい、経験が知りたいので教えて欲しいです。
- ・先生の話し方と内容が分かりやすかったです。熱心なボランティアさんに助けてもらえました。第2回と第4回の内容は特に役立つと思います。もう少し個人的な状況に沿ったアドバイスや提案が欲しい。例えば、自分の能力はどうやって日本の状況に合わせる。講座の内容について特に難しかった内容はないけど仕事を探すとき、やはり自分の日本語能力上達しなければなりません。
- ・スタッフの方々本当にお世話になりました。1日目はとっても緊張していました。1回目の電話の掛け方本当に勉強になりました。2回目の履歴書の書き方細かいところまで丁寧に教えて下さいました。3回目の講座は難しかったのですが私たちに教えて下さった堀西先生やボランティアさんの方々に感謝の気持ちで聞きました。4回目の時間は柔らかい雰囲気難しい面接時のマナーを分かりやすく教えて下さいました。是非使うようにそしてなれるように頑張ります。難しかったところ、実際店員になったりヘルパーさんになったりして使う言葉が難しかったです。(ロールプレイ)日常生活でも使う丁寧な言葉とマナーも習いたいです。
- ・まず先生たちの教え方が大変良かったです。一番良かったのは第4回目11月12日(金)の内容(面接のマナーのロールプレイ)次は第3回目11月9日(火)雇用の仕組みビジネスマナーそして電話の掛け方、敬語のことばも色々学びました。敬語の言葉はやはり大切だと思いました。難しかったのは第2回11月5日(金)内容「履歴書の書き方、自分の履歴書を書くのは完成できませんでした。雇用の仕組みの内容は少し分かりにくかったところがありました、それは給与明細のサンプルの見方でした。自分の履歴書を書くのがもっと練習したいです。他に勉強したいのはできればレジのことでと食堂でうまく接客できるように

勉強したいです。

- ・講座でいろいろなことを学んで、簡単で本当にすぐに使えるし、とても勉強になりました。第1回から第5回までの講座を勉強したかったのですが第4回に勉強できなくてとても辛かったです。漢字に分らなかったところがある。
- ・先生が教えて下さって、生徒が全員で聞くことができ履歴書を書くことができよかったです。役割練習、グループ練習はうるさくて声が聞こえないです。

＜モデル事業(しごとにつなげるにほんご講座等)ボランティアのアンケートより＞

- ・丁寧な指導でとても役立つ講座だと思った。“転職”に危機感のある方、ない方の姿勢の違いが際立っていた。
- ・＜履歴書作成の回について＞気持ち(志望動機)はあっても形(文章)にするのは難しいと思った。文例がたくさんあれば少し楽かもしれない。個人の日本語力に合わせた内容にすることに苦労した。自分にも履歴書作成の知識がないので、十分にサポートできず申し訳なかった。
- ・書く必要性を感じていない方には苦しかったようで、正式版と簡略版(見本等)があれば、やりやすかったのではないかな。
- ・受講者が一生懸命に日本語でしかも漢字を使おうとしている姿勢が大変すばらしいと感じた。外国人の方は日本語というハンディがあるが、前職での経験があればそのハンディを克服できる可能性もあるので、志望動機は前職の経験を踏まえ記入できるとよいと思う。
- ・＜面接練習の回について＞受講者は少なかったが、内容はボリュームがあり前年度より一層バージョンアップし、本番に近い面接の講座でした。面接会場の出入りの仕方、あいさつ、お辞儀などを繰り返し練習することができました。受講者からも、この講座は楽しかった、受けてよかったですとコメントをもらった。ボランティアもロールプレイに参加して面接を受け緊張しましたが、大変勉強になりました。
- ・＜敬語講座について＞遅刻の受講者が多かったので、就労支援の一貫でもある、時間厳守を徹底すればよかった。二重敬語、受身態との使い分けが難しかった。尊敬語を使うにあたり、相手と自分との使い方の区別が分かりにくいと受講生からの意見があった。
- ・＜敬語講座について＞講師の声の大きさや速さが受講者に適していた。受講者が話す場面を多く取り入れており、また受講者同士で話す場面(実際に敬語を使ったロールプレイ)や反復練習を多く取り入れていたことがよかった。また、絵カードを使い、視覚からの情報と合わせて学習させていたことも効果的だと感じた。

②実施主体からの研修内容結果評価

A: 学習会(人材育成のための学び)

目的: 事業を推進する人材が、専門的知識やスキルの取得や、運営基盤の強化のための学び(市民活動や組織運営等)を行うことができた。

B: 地域資源のリサーチ(調査・研究)

目的: 行政が行っている支援事業や取り組みに参加し、外国人市民が利用できるか、またどのようなサポートがあれば利用できるかを調査・研究できた。

C: 実践的学び(モデル事業の企画・運営)

目的: 「生活者としての外国人」のニーズに合った事業を実際に試験的に実施することで、事業の企画・運営・評価の一連の流れや、効果と改善方法をOJT(On the Job Training)で実践的に学ぶことができた。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

とよなか国際交流協会は、2011年4月よりとよなか国際交流センターの指定管理者となる。それに伴い人件費を中心とする大幅な予算の削減等、全面的な改革を迫られ、協会をとりまく環境が大きく後退する。このような条件の中、多様化する生活者としての外国人のニーズに対応していくためには、協会が行うだけでなく、行政の多様な部署や地域の団体等との連携・協働で課題解決を模索したり、多様な支

援主体(=新しい公共の担い手)を育成することが、地域での外国人支援体制を広げることにつながる。今後は、委嘱事業によって人材育成したグループ(委嘱事業を行う中で人材育成されたボランティアが立ち上げたグループ)と協働しながら、「生活者としての外国人」が地域で安心・安全に暮らしていくための日本語支援事業を開発・実施していく。また同時に、外国人リーダーを養成したり外国人自助組織(コミュニティ)づくりを進め、外国人自らが問題解決能力を身につけたり、問題そのものを抱えないようにするための学びの場を創造していく。

(11) 事業の成果

①他事業との連携

・市のさまざまな関係部署との連携を整理・確認し、それぞれのもつ地域資源をうまく組み合わせることにより、これまで解決できなかった課題(自立を目指す外国人の就労支援、就労支援サポーターの人材育成、図書館における多文化サービスの充実、母子保健・子育て分野の関係部署と外国人母子のサポート連携)に取り組むことができた。

・今年度は雇用創出基金事業(重点分野雇用創造事業)を活用し、この事業を担う外国人スタッフの人材育成ができ(2010年9月～2011年3月)、この人材が事業の大きな推進力となり、さまざまなモデル事業の企画・実施を行うことができた。

・就労支援に関しては、豊中市の無料職業紹介所や地域就労支援センターという地域資源と連携し、自立を目指す外国人の支援の流れく相談→就労のためのスキルアップ(日本語支援・求職のための知識・スキルの取得)→求職サポート→就労定着支援(日本語支援・ビジネスマナー等)とその役割分担を確認し実践することができた。

②研修後の人材活用

・外国人支援を行うための専門的な知識やスキルを学び、社会資源(支援事業や取り組み)を実際に利用して外国人支援事業(モデル事業)を行うという一連の実践を通して、事業を推進する人材育成と、外国人のエンパワメントと自立のための支援事業ができた。

・2年間の委嘱事業の成果を基に、外国人の自立とエンパワメントを支援するグループが立ち上がった。(日本語支援グループむすびめ～さまざまな分野が連携して外国人の自立を支援する～)今後は、このグループと、お互いの強みと弱みを活かして、「生活者としての外国人」が地域で安心・安全に暮らしていくための日本語支援事業を協働で開発・実施していく。

(12) 今後の課題

①市のさまざまな関係部署との連携の持続・発展と今後の役割分担

2年間の委嘱事業で育んだ市のさまざまな関係部署との連携を、“踏襲的”ではなく、時代の状況やニーズに合わせて持続・発展させていく。特に、行政においては年度によって担当者が変わることを踏まえ、今後、何をどこまでどのような体制で行っていくかを考え、連携(信頼関係)の持ち方や維持を行政の枠組みの中に組み入れることも視野に入れたさらなる“しくみ”づくりを行い、行政との役割分担を整理していく。

②“しくみ”を持続可能なセイフティーネットとして広く認知されるよう地域に根付かせる

外国人が地域で安心・安全に暮らしていくための、さまざまな分野における“しくみ”を持続可能なものとしていくためには、地域で外国人やその隣人たちによって、そのことが必要不可欠なものとして認知されていく必要がある。行政も含め、特定の人や団体が行うものではなく、地域でそれを支えようとする動きができるような仕掛けをつくっていく。

③外国人の自立とエンパワメントを支援するグループとの関係性

委嘱事業によって生まれた外国人の自立とエンパワメントを支援するグループ、国際交流協会、行政という立場のちがうものが、お互いの強みと弱みを活かして、外国人が地域で安心・安全に暮らしていくための課題解決を推進していくためのよりよいパートナーシップを構築していく。